

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅹ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	佐々木 由布子	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

人生の最終段階における介護の意義と目的を理解し、基本的な介護の知識・技術・態度を習得する。「死の受容」「生きる意味」「苦悩」「関係性」「日常の生活支援の延長」という概念を理解する。そして、学んだ概念と「看取り」ケア、家族へのグリーフケアがどのように繋がっているのかを学んでいく。

【到達目標】

- 1) 人生の最終段階における介護の意義・目的を説明できる。
- 2) 人生の最終段階にある人のアセスメント方法を理解し、説明できる。
- 3) 人生の最終段階にある人を支える制度・方法・多職種連携の内容、意味、意義を説明できる。
- 4) 悲嘆のプロセスとグリーフケアの関係・意味を説明できる。
- 5) 「看取り」ケアとグリーフケアの関係を説明できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 終末期における介護の意義、目的、「看取り」ケアの考え方、家族との協働作業、全人的ケア
 第 2回 ライフサイクルと人生観・死生観、時間の有限性（個人ワーク・グループワーク）
 第 3回 ライフサイクルと人生観・死生観、時間の有限性(発表)
 第 4回 告知とインフォームドコンセント、事前指定書(個人ワーク・グループワーク)
 第 5回 告知とインフォームドコンセント、事前指定書(発表)
 第 6回 人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(個人ワーク・グループワーク)
 第 7回 人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(発表)
 第 8回 人生の最終段階における人の心身の苦痛と諸症状の理解とケア(技術、かかわり方について学ぶ)。
 第 9回 「看取り」ケアの困難性、「看取り」ケアは、「日常の生活支援の延長」ということ、「生きる意味」を見出すということについて
 第10回 「死」について考える(レポート作成のための視覚教材視聴)
 第11回 人生の最終段階にある人の家族ケア、家族を含む「看取り」ケアにおけるケアプラン作成について
 第12回 臨死期のケアの方法①看取り
 第13回 臨死期のケアの方法②エンゼルケア
 第14回 「看取り」ケアにおける ACP の役割、チームケアについて(ツール・専門職の役割について学ぶ)。
 第15回 グリーフケア、予期悲嘆の関係、「看取り」ケアと悲嘆の関係を学ぶ。

【授業実施方法】

講義と演習・発表を組み合わせた講義展開とする。事前学習、視覚教材を活用し、段階的に学習を行っていく。

【授業準備】

「死」「看取り」「グリーフケア」「死生観」「ライフサイクル」に関する文献を読んでおくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本、社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、ソーシャルワーク演習、介護実習、ソーシャルワーク実習、ゼミナールⅠ・Ⅱ。

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ、中央法規。

【参考文献】

岸本英男：死を見つめる心ーがんとたたかった10年間ー、講談社、東京、2010年、柳田邦夫：「死の医学」への序章、新潮社、東京、1990年、

【成績評価方法】

演習等への取り組み(20%)、レポート(30%)、筆記試験(50%)

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

高齢者福祉施設の介護職員として数十人の利用者を看取ってきた。介護現場での経験を活かし、利用者の尊厳、家族の意向を重視した講義になるようにしたい。

【学生へのメッセージ】

「死」「看取り」「生きる意味」の意味を問うことで、死へのかかわり方を学んでいく。また、視覚教材、個人ワーク、グループワークを通じて、自分の分からないこと、難しいことを明らかにしていくこと。最終的には、知識・経験・実習と結びつけながら、「ことば」の根源的な意味を再認識していくこと。